

## はじめに

急速かつ激しい変化が進行する現代社会において、教育に求められているのは、子どもたちに基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力（確かな学力）と、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性（豊かな心）、たくましく生きるための健康や体力（健やかな体）などの「生きる力」をはぐくむことです。中でも、児童生徒の確かな学力の定着・向上を図るにあたっては、児童生徒の学習状況を把握し、教師が指導法の工夫・改善を進めていくことが重要です。

県教育委員会では、こうした状況を踏まえ、平成16年度から児童生徒の小学校終了段階における個々の学習状況を把握し、その結果を基に小学校と中学校が連携して学習指導の改善に取り組むことを趣旨とする「確かな学力育成小中連携事業」を実施しています。平成17年度4月には、児童生徒一人一人に学習指導要領に示された内容がどの程度定着しているか、思考力、判断力や表現力がどの程度身に付いているか、その実態を把握するために県内の全公立中学校の第1学年の生徒を対象に学習到達状況調査を実施しました。

各学校、各市町村教育委員会においては、この調査結果を踏まえ、児童生徒の学力の状況を適切に把握するとともに、連携して結果の分析等を行い、「分かる授業」の実現等に向けた取組の一層の改善・充実に努めていただいているところです。

平成18年度調査においても、昨年度と同様、県内の全公立中学校の第1学年の生徒を対象に調査を実施したところですが、このたびの調査では、基礎的・基本的な内容を問う問題とともに、これまでの調査で課題として明らかになっている児童生徒の思考力、判断力や表現力の実現状況をより詳細に把握するという趣旨の問題についても、各教科において積極的に取り入れています。

本報告書では、各教科の調査結果の概要をまとめるとともに、結果分析から明らかになった課題、具体的な指導改善のためのポイント等を記載しています。

特に4教科に共通して身に付けさせたい学力として、

基本的な用語等の理解，言葉の正しい読み書き，計算の技能など，  
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ること

文章の構成や論理の展開などを踏まえて内容を理解することや，  
目的に応じて必要な資料を選択し，社会的事象を考察することなど，  
判断力や読解力の育成を図ること

様々な資料や情報，実験の結果などを整理し，考察を十分に行った上で，  
自分の考えを明確にし文章等で表現するなど，思考力や表現力の育成を図ること

があげられます。

各学校，各市町村教育委員会においては，これらの共通して身に付けさせたい学力を踏まえた上で，本報告書に示されている教科ごとの学力の現状と課題や分析結果を十分に検討していただき，小・中学校や教育委員会が連携して，学校や地域の実態に応じた授業の改善や充実に向けて積極的に取り組んでいただきたいと考えています。

また，県教育委員会においては，本年度から「授業で勝負！」支援事業を実施し，推進校とともに，「授業力」の一層の向上を目指した実践研究に取り組み，小・中学校児童生徒の学力向上を図っているところです。今後，こうした推進校の取組の成果も県内の小・中学校に広めたいと考えています。

本報告書が生かされ，個に応じたきめ細かな指導が行われることによって，本県の児童生徒が「確かな学力」を確実に身に付けられることを切に願っております。

平成18年9月

岡山県教育委員会教育長

門野 八洲 雄